

長谷川 鈴さん

はせがわ すず

優秀賞
中条中学校 3年



みなさんの周りには、休んでいる人はいませんか。そして、その人に対して簡単に「サボリ」とか「甘え」とか「不登校」とか言っていないですか。そもそも、休むことは悪いことなのでしょうか。

私がこのように考えるようになったのは、自分のある発作がきっかけでした。その発作は「てんかん」といいます。

中学二年生だった四月二十六日。私は学校で倒れて、救急車で運ばれました。今は薬が効いて発作は起きにくくなっているのですが、一時期は大変でした。

普通に倒れたり、意識を失ったりするだけならまだいいのですが、けいれんのせいで、変な動きをしながら倒れるようになってしまったのです。何よりも、私は倒れるところをクラスメイトに見られるのが嫌で仕方ありませんでした。私の心の中は、「みんなを怖がらせてしまうかもしれない。迷惑をかけてしまう。変に思われるかもしれない。」という不安でいっぱいでした。

私は学校へ行くのがだんだん怖くなりました。「また倒れたらどうしよう」と毎日のように考えてしまい、少しずつ学校を休むようになってしまいました。母親に泣いて頼み、数日は休ませてもらえました。しかし、その後は休ませてもらえなくなりました。

休みたがる私を見て、父親は「不登校だ」と言うこともありました。その時は、「学校を休むことは悪いことなのか？人にはそれぞれ悩みがあるし、その悩みはその人にしか分からない。それをバカに

するように、簡単な言葉で言うのは違うのでは？」と、心の底から思いました。その時、私は「サボリ」とか「不登校」とか人に言わない人間になりたいと強く思うようになりました。

病気の人や、休んでいる人、それぞれにきつといろいろなことを考え、悩んでいるのだと思います。自分がそういう立場になって、初めてそう思いやれるようになりしました。休んでいる人に優しく寄り添える人になりたいと思うようになりました。こんな風に考えられるようになったという意味では、病気に感謝もできません。

私の両親の気持ちももちろん分かります。

きつと「今しかない中学校生活を楽しんでほしい。病気なんかには負けないで、将来幸せになつてほしい。これを持ち越えてしっかりと大人になつてほしい。」と、私のことを第一に考えてくれているのだと思います。発作が起きた時には、仕事を中断してすぐに駆けつけてくれて、すごくありがたく思っています。

同じ学年の男子も、私が倒れた時には、本気で助けてくれました。心配して声をかけてくれる友達、そつと見守ってくださる先生にも感謝しています。

私はこの病気になつてから、人思いやれる人間になりたいと思うようになりました。みなさんはどうでしょうか。周りの人を大切にできていますか。休んでいる人を簡単な言葉でバカにしていますか。「甘え」だとか「サボリ」とか、

傷つくことを言っていないですか。一人一人、誰もが大変なことがあったり、つらいことがあったりするんだと思います。そういうことを察してあげて、寄り添える人を目指していきたいでしょう。私もそうしていきます。

休むことは悪いことではないと思います。「体の休憩」が必要なように、「心の休憩」も必要だと思います。

みなさん、お互いに寄り添う気持ちを大切にしながら、みんなで「心の休憩」を取りやすい世の中を作っていきたいでしょう。

(原文のまま掲載しています。)